

社会福祉法人キリスト教ミード社会館

大阪コミュニティワーカー専門学校

2023 年度 自己評価報告書

2024 年 3 月

目 次

1	教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	2023 年度事業計画・・・・・・・・	1
3	取り組み及び評価の状況	
基準Ⅰ	教育理念・目的・育成人材等・・・・・・・・	4
基準Ⅱ	学校運営・・・・・・・・	6
基準Ⅲ	教育活動・・・・・・・・	7
基準Ⅳ	教育成果・・・・・・・・	8
基準Ⅴ	学生支援・・・・・・・・	9
基準Ⅵ	教育環境・・・・・・・・	11
基準Ⅶ	学生の募集と受入れ・・・・・・・・	12
基準Ⅷ	財務・・・・・・・・	14
基準Ⅸ	法令の遵守・・・・・・・・	14
基準Ⅹ	社会貢献・地域貢献・・・・・・・・	15

1 教育目標

「これからの介護福祉人材の動向を注視し、介護福祉士養成校での人材養成に対する社会的期待、それに携わる意義、そして責任を考え、介護リーダーの育成に注力する」

外国人介護人材が、EPA 介護福祉士候補者、介護福祉士養成校で専門教育を履修して介護福祉士資格を取得した留学生、技能実習生、そして特定技能「介護」と広がりを見せる中、今後もその在り方は急速に変化していく事が予想される。現在、当校は留学生を主体とした介護人材養成を行っており、2025 年度入学者からは卒業後の在留資格「介護」取得には介護福祉士国家試験の合格が義務化される見込みである。これからも安定した学校運営を継続していくには、全職員が危機感をもってこれからの介護福祉人材の動向を注視し、その変化に対応していく必要がある。外国人介護人材の中でも、我々が携わっている介護福祉士養成校で専門教育を体系的に学び、介護福祉士資格を取得する「外国人介護リーダー」とも言える留学生は、近年広がりを見せる特定技能「介護」と比較してその技量は全く異なり、社会的期待はとても高いものである。多様な文化・価値観をもつ「ひとりひとり」の学生と真摯に向き合うということを継続して胸に刻み、与えられた社会的期待に対して、それに携わる者として、その意義と責任を絶えず自身に問いかけながら介護リーダーの育成に注力していく。

2 2023 年度事業計画

・介護福祉士養成課程 コミュニティケア科第Ⅰ部（Ⅰ部昼間 3 年制）

①留学生を受入れている全国の専門学校や大学を相手に非常に厳しい学生獲得競争であったが、積極的かつ丁寧な学生募集活動、そして学生に対する真摯な関りの成果があり、定員以上の学生を獲得することができた。2023 年度は新 1 年生 45 名、新 2 年生 41 名、新 3 年生 41 名の合計在籍者 127 名でスタートする予定。今年度も未来を担う介護リーダー育成の為に、積極的に学生募集活動を展開する。

②2022 年度は介護福祉士国家試験合格率が 70%に迫る高い合格率となったが、これからも試験対策の改善点や新しいアイデアを職員全体で考え、実践することで合格率の更なる向上を目指していく。

③2019 年から続いた新型コロナウイルスの影響が終息に向かう中、新規留学生数が回復、そして増加傾向を示している一方で観光業や IT ビジネスといった業界の外国人採用数が増加することが見込まれる。これまで「就職難」によって卒業後の就職を見据えて介護福祉士養成校を選択した学生は少なからず存在していることから、特定技能「介護」の存在も含めて、新たな視点での学生募集構想が必要となる。これからの学校運営は社会情勢の変化によって様々な困難も予想されるが、学生にとって魅力ある充実した学校の実現、高いレベルの介護人材養成、そして安定した学校運営の継続に向けて職員全体で協力、アイデアを出し合い、努力を続けていく。

・付帯事業 実務者研修（450 時間・通信）

全国的な実務者研修受講者の減少に加えて、多数の申し込みをいただいていた特定の事業所からの申込数も減少傾向にある。2023 年度も受講生に対し、柔軟で丁寧な対応を心掛けることはもちろんであるが、受講生確保に向けて新たな広報活動の展開を行うことで 2022 年度以上の受講生獲得、充実した講座を提供できるよう努力する。

・介護福祉士実習指導者講習会（450 時間・通信）

2022 年度から開始した介護福祉士実習指導者講習会を継続して実施。コミュニティケア科第 I 部学生の実習施設受入拡大も視野に入れて活動を強化する。

・中校生を対象とした職業体験学習

大阪府専修学校各種学校連合会による事業、中校生を対象とした職業体験学習を 2022 年度に引き続き実施する。中学生に「介護」「福祉」という職業があるということ、人の生活、そして生命を支える大切な職種であるということを知ってもらう為、2023 年度も積極的に出張講義に出向いていく。

3 取り組み及び評価の状況

基準 I 教育理念・目的・育成人材等

○取り組み及び評価の状況

1 取り組みの状況

①理念・目的・育成人材像は定められているか

母体法人である社会福祉法人キリスト教ミード社会館の『隣人愛を実践に』という理念、及び『互いに共感を持ち、尊敬し合い、共に喜びを共有します』という年度目標を踏まえつつ、年度ごとに教育目標を掲げ、目的意識を持って介護リーダーの養成に取り組ん

でいる。

②学校の特色は明確にされているか

当校は全国に多数ある介護福祉士養成校の中でも第1期校である伝統校として、2017年度から先駆的に留学生の受け入れを開始し、既に100名を超える外国人介護福祉士を輩出している。培った歴史と経験を活かすとともに、既存の枠組みの囚われることなく、広い視野を持って介護福祉士養成を進めている。その為に学校の年度目標として「これからの介護福祉人材の動向を注視し、介護福祉士養成校での人材養成に対する社会的期待、それに携わる意義、そして責任を考え、介護リーダーの育成に注力する」を掲げている。

③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか

ホームページや広報媒体などで明示している他、入学前のオープンキャンパス等で参加者に教育理念や介護分野での専門的職業人を目的としている旨の説明を行っている。在籍者の大半が留学生であるので、保護者に説明することができない為、入学希望者が在籍している日本語学校の教員の方々に、介護業界の現状と当校の教育理念、外国人としての就労等について、進学ガイダンス等での機会はもちろん、学校を訪問して周知に努めている。

④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

介護業界は急速に外国人材の受入れが進んでいる。外国人材が保有する在留資格として特定技能があるが、当校で取得するそれは介護福祉士国家資格を取得したうえで認められる在留資格「介護」である。その為、これから益々増加する特定技能での外国人労働者を、身近な視線で指導する役割も担っていく当校の外国人留学生は、単なる労働力ではなく、様々な側面から介護業界において期待される人材であるので、日本人学生であるならばグローバルな視野を持った介護リーダー、留学生であるならば即戦力としての外国人介護リーダーの養成という社会から求められる人材育成に取り組んでいる。

2 評価

評価の観点	評価
① 理念・目的・育成人材像は定められているか	適切

② 学校の特色は明確にされているか	適切
③ 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	適切
④ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	ほぼ適切

3 課題

留学生受入れ当初は、学生の国籍としてベトナムが圧倒的に多かったが、ネパール、インドネシア、中国をはじめ、多数の国と地域から留学生がともに学ぶ学校へと変化してきている。留学生と一言でいっても、一人ひとりが持つ文化、生活背景は同じ国であったとしても様々な違いがあるので、学生理解・支援は当たり前のことではあるが簡単なものではない。

4 今後の改善方策

法人の理念である『隣人愛を実践に』を絶えず意識して学生に関わる事が一層必要となる。留学生への理解を深めるために、職員一人一人が専門分野の研究のみならず、様々な国や地域の歴史、文化、生活背景、価値観、経済状況などを積極的に知識として得ていく事、我々が持っている価値観が、それが当たり前ではないということを前提に考える事が必要である。

基準Ⅱ 学校運営

1 取り組み状況

①目的等に沿った運営方針が策定されているか

新型コロナに対して、国や県の方針等に沿って、本校における活動基準を策定し、対策を行ってきた。

在籍する学生のほぼ全てが留学生となっている現状の中、「日本語」の理解不足の為に、学習が進まないことが多かった。その為、日本語学習に特化した授業も実施することで専門教育がスムーズに進むよう対策を講じている。

②教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか

本校は社会福祉法人キリスト教ミード社会館が運営する専門学校であり、意志決定システムに関する事項は、法人により規定されている。

③教育活動に関する情報公開が適切になされているか

法人が発行しているミードだより（毎年４回発行）や学校のホームページ、学校案内パンフレットなどで積極的に情報公開している。

④業務の効率化が図られているか

留学生を受入れるにあたって生活指導が重要となるが、(株)with に生活サポート、アルバイト管理業務について契約を行い、専門教育業務の効率化につなげている。また、留学生事務担当者を設置することで在留資格等の業務も効率的に行われている。

２ 評価

評価の観点	評価
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切
② 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切
③ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	ほぼ適切
④ 業務の効率化が図られているか	適切

３ 課題

ホームページにて情報の発信を行っているが、介護業界を志す入学希望者への周知が十分に行われていない現状がある。

４ 今後の改善方策

インターネットを活用するうえで、今後は SNS を用いた情報発信が欠かせない。それを活用することができる広報担当者の設置が望まれる。

基準Ⅲ 教育活動

１ 取り組み状況

①学校の教育目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか

現在の介護福祉士養成課程は、旧来の２年制課程と異なり、様々なライフスタイルに対

応できる 3 年制の介護福祉士として 2016 年より歩みを始め、現在に至っている。留学生が増加する中、学生が学習面でも経済的にも不安なく介護福祉士取得に必要なカリキュラムを修得できるように編成・実施方針を策定している。

- ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか

演習授業である生活支援技術では、業界ニーズである「即戦力」の専門職者育成の為に、学習密度の濃い少人数制での演習を心掛け、技術の習得に努めている。また、医療的ケアについても演習授業において、その評価基準への技術習得達成を徹底して実施している。

実習においては、3 年制という特性と活かし、実習期間を分散させることで、多数の実習施設での経験を積むことが可能であり、専門職者としての幅広い視野の育成につなげている。

- ③教育方法の工夫・開発などが実施されているか

新型コロナ完成拡大期においては、Zoom やビデオ機器を使用して教室を分散して授業を行うなど、専門技術の習得に遅れが出ないように配慮して授業を実施した。留学生が大半であるので、日本語に関する授業も実施している。

- ④関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか

1 年次には実習前に不空数の施設を実際に見学訪問、2 年次には障害者分野において外部講師を招聘した特別講座を実施、3 年次には卒業前セミナーとして卒業生を講師として招聘して、社会人としての心構えを近い関係性の中で伝える機会を設けている。

- ⑤授業をよりよく改善していくための授業評価はあるか

講座においては授業内容に関するアンケート調査を実施し、内容改善を図っているが、専門課程に関しては紙面でのアンケート等を実施しておらず、面談時での聞き取り調査を行っている。

- ⑥実習先、就職先からの評価を取り入れているか

各実習における実習報告会での実習指導者の意見を次年度の教育活動に活かすとともに、問題点が発生した場合は施設に訪問し、改善に努めている。また、実習指導者講習会を実施することで、各施設間との関係性の向上に努めている。

- ⑦資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

令和 7 年度入学生より介護福祉士国家資格取得には卒業年度における国家試験合格が必

須となる。現在の在校生は経過措置にあるが、留学生の合格率は約半数という現状の中、合格率を向上させるために、教務会で各教科における試験対策の進捗具合の共有を図っており、3年次には試験対策講座も実施している。

⑧教員の資質向上及び教員同士の情報共有化など、指導力向上のための取組が行われているか

情報共有化としては、就業開始時での朝礼、月1度開催される学校部会、教務会を実施しており、日々における逐次共有は教職員間のグループラインを構築して対応している。指導力向上に関しては、各自必要な研修に参加できるように予算をとっているが、コロナ禍の影響により、研修開催が少ない現状にある。

2 評価

評価の観点	評価
① 学校の教育目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切
② 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切
③ 教育方法の工夫・開発などが実施されているか	ほぼ適切
④ 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	適切
⑤ 授業をよりよく改善していくための授業評価はあるか	改善が必要
⑥ 実習先、就職先からの評価を取り入れているか	適切
⑦ 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	ほぼ適切
⑧ 教員の資質向上及び教員同士の情報共有化など、指導力向上のための取組が行われているか	ほぼ適切

3 課題

面談時の項目としては挙がっているが。授業評価として各学生に対してアンケート方式

での各科目・教員に対する評価の実施を行っていない。

4 今後の改善方策

在籍者の大半が留学生という状況であるので、記名式でのアンケート調査の場合、日本語力の問題から正確なデータの回収が難しい部分があるが、評価基準作成を工夫し、事前に入念に説明を行って実施していく必要がある。

基準Ⅳ 教育成果

1 取り組み状況

①就職率の向上が図られているか

当校は介護福祉士養成課程のみであるので、留学生の場合は原則として在学中は介護アルバイトを奨励している。また、生活指導と合わせて、専任としてあたっている教員がアルバイト先と綿密に連絡を取っており、実習先からの募集と合わせて 2022（令和 4）年度の就職率は、100%である。

②資格取得率の向上は図られているか

当校は厚生労働省の指定校であり、学生は卒業と同時に介護福祉士国家試験受験資格が取得できる。しかし、令和 9 年 3 月以降の卒業生からは資格取得には国家試験合格が必須となる。その為、模擬試験や国家試験対策講座などを実施し、資格取得率の向上を目指している。

③退学率の低減が図られているか

留学生の場合、退学となると基本的に在留資格を喪失し、帰国することが必要となる。その為、退学後、不法滞在となる事等を防止する「管理」が重要となる。だからこそ日々の学生の様子をしっかりと観察し、出来得る限り相談しやすい雰囲気を作り、耳を傾けるように努力している。結婚や就職の為、在留資格を変更しての退学の場合でも親身なサポートを心掛けている。

④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

在校生のアルバイトや就職については、その管理を専任職員が担当することでサポートと情報把握に力を入れている。また、卒業生のほぼ全てが介護業務に従事しているため、卒業後の動向が把握しやすくなっている。

2 評価

評価の観点	評価
① 就職率の向上が図られているか	適切
② 資格取得率の向上は図られているか	ほぼ適切
③ 退学率の低減が図られているか	適切
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切

3 課題

現状として、介護福祉士国家試験に不合格であっても条件付きで国家資格が付与される経過措置期間にある為、学生ひとりひとりの試験に対する学習意欲がなかなか向上しない。

4 今後の改善方策

合格への意欲を高める工夫を各教科で工夫していくとともに、合格することで在留資格の面で優位な事もあるので、そこを含めて留学生に周知していく必要がある。

基準Ⅴ 学生支援

1 取り組み状況

①進路・就職に関する体制は整備されているか

専任の生活指導・アルバイト管理者とクラス担任の連携により、就職支援活動を行っている。また、退学して進路変更を希望する場合でも留学生管理担当者と教職員が連携して対応している。

②学生相談に関する体制は整備されているか

学生に対して、分からないこと、心配なことがあればいつでも相談に来るようにと、教職員全体で絶えず声掛けを行っている。また、生活上の問題（住居や税金等）についても専任の職員が常時ラインでつながっており対応している。

③学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか

介護福祉士養成施設の在籍している留学生の大半は介護福祉士修学資金を利用しているが、当校は「様々なライフスタイルに合わせて学べる３年制の学校」として設立した背

景があるので、ほぼ全ての学生が自身で学費を支払っており、卒業後に就職先を自身で選ぶことができるという大きな特徴を持っている。それを可能にするためにも留学生には1か月ごとの学費分割納入を認めている。なお、現在在籍している学生が利用している奨学金制度としては、一般社団法人生命保険協会介護福祉士養成給付型奨学生、公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団介護福祉士等奨学生、大阪府社会福祉協議会大阪府介護福祉士修学資金貸付等がある。

④課外活動に対する支援体制は整備されているか

学生からの要望がないため、現状としてクラブ活動は実施していない。なお、ボランティア活動の希望者がいた場合は実習施設と連携して適時紹介している。

⑤保護者と適切に連携しているか。

留学生が大半という現状であるので、学生出身国にいる保護者と連携する機会は日本人学生と比較して格段に少ないが、体調不良であったり、長期欠席がみられたりした場合には、通訳者を通して適時対応している。

⑥卒業生への支援体制はあるか

卒業後もラインでつながっているので、転職や新たな資格取得に関する相談などがあった場合は、当時の担任を中心に支援を行っている。また、国家試験に関する卒業生への支援として、希望者に対して模擬問題等の提供を行い、卒業後も継続的な支援を行っている。

2 評価

評価の観点	評価
① 進路・就職に関する体制は整備されているか	適切
② 学生相談に関する体制は整備されているか	適切
③ 学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	ほぼ適切
④ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	ほぼ適切
⑤ 保護者と適切に連携しているか。	適切
⑥ 卒業生への支援体制はあるか	適切

3 課題

コロナ禍が終息に向かう状況にあるが、学生の経済的なダメージはいまだに残っており、学費支払いが困難となっている者が複数人存在している。

4 今後の改善方策

当校に在籍している留学生は学費納入について毎月分割した支払いを認めているが、コロナ禍の影響によって致し方なく納入が遅れる学生に対して個別に相談に応じ、支払い計画を立てていく必要がある。

基準VI 教育環境

1 取り組み状況

①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

母体である社会福祉法人キリスト教ミード社会館の本館建物が1982年、新館建物が2008年の設立であるため各教室ともに年数が経っているが、2017年には各教室にプロジェクターを設置し、2021年には教室をリフォームして教育環境の改善を行っている。また、介護専門教育として、様々な演習物品に関しても新しいものを導入することを心掛け適時購入・更新し、高額な最新機器の場合はレンタルして学生が実際に触れて学べる機会を作っている。なお、社会福祉法人立の学校という特徴があるので、介護を学ぶ学生として絶えずそれを感じることができる環境にある。

②防災に対する体制は整備されているか

社会福祉法人キリスト教ミード社会館の防災マニュアルに基づき対応している。

2 評価

評価の観点	評価
① 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	適切
② 防災に対する体制は整備されているか	改善が必要

3 課題

近い将来に想定されている南海地震など大災害を想定した訓練が実施できていない。

4 今後の改善方策

地震というものが身近にない国や地域からきている学生も多数いるので、留学生にも分かりやすく説明を行い、防災意識を高め、訓練を実施していく必要がある。

基準Ⅶ 学生の募集と受入れ

1 取り組み状況

①学生募集活動は、適正に行われているか

18 歳人口の減少、高校生等の大学志向の強まりはもちろん、介護福祉分野への進学希望者の減少により、全国の介護福祉士養成校は危機的な状況にあり、学校数の減少が進んでいる。そこで当校では入管難民法改正によって在留資格「介護」が創設されたことを受け、2017 年度から留学生の受け入れを始め、現在の在籍者は留学生がほぼ全てとなっている。主な学生募集活動として、下記にあるような活動を展開している。

ア 従来通り、日本人学生の募集も行っているが、留学生でも理解しやすいように学校ホームページや学校パンフレット、募集要項の更新を行っている。また、介護分野への理解を更に促すために在籍している留学生によるメッセージ動画を作成し、訴求力を高めている。

イ 日本語学校への進学ガイダンス（2023 年度実績 23 校）へ参加し、介護分野へ興味を持つ学生へ直接、当校の特徴を伝えるとともに疑問に答える機会を設けている。また、日本語学校教員にも当校の特徴はもちろん、介護業界の現状や在留資格について等を周知させていただく機会としている。

ウ オープンキャンパスへは参加促進の為、当校ホームページから参加予約ができるようにしている。なお、遠方居住者の場合は Zoom を利用したオンラインオープンキャンパスも実施しており、その場合、語学面での理解不足から進路選択に間違いがないように在籍している日本語学校の先生にも同席頂いている。

留学生の受験に際しては、事前に本校の教育方針や教育内容を理解し、志望動機や学習意欲を確認するために、受験するにはオープンキャンパスの参加を必須条件としており、在籍している日本語学校の担任の先生にも受験についての情報共有を必ず行っている。

②アドミッションポリシーに基づいた学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。

留学生においては日本で介護福祉士を取得し、在学中に介護職アルバイトをするとともに卒業後に日本で介護職として就業を強く希望する者というアドミッションポリシーを策定し、学校が求める人材像を明確にしており、取得できる資格やカリキュラム、就職実績などの教育成果については、学校案内パンフレットや学校ホームページにて公開している。

③入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。

入学選考については、日本人入学希望者、留学生希望者ともに学生募集要項に掲載しており、面接試験と作文試験とは別に留学生の場合は日本語に関する試験を実施している。その内容についてはオープンキャンパスにおいて丁寧に伝えている。入学者選考に際してはそれぞれの試験内容を点数化し入試委員会にて選考している。

2 評価

評価の観点	評価
① 学生募集活動は、適正に行われているか	ほぼ適切
② アドミッションポリシーに基づいた学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	適切
③ 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。	適切

3 課題

介護分野へ進学を希望する日本人学生の獲得ができていない。

4 今後の改善方策

実際の介護現場においても人材不足は慢性的で深刻な状況となっており、日本人を対象とした学生募集は非常に困難であるが、付帯事業である実務者研修や介護福祉士実習指導者講習会でのつながりを活かしつつ地道に活動を続けていく必要がある。

基準Ⅷ 財務

1 取り組み状況

①財務情報公開の体制整備はできているか

母体である社会福祉法人キリスト教ミード社会館によって体制整備を行っており、財務情報は、ホームページで法人及び学校全体の財務状況を公開している。

2 評価

評価の観点	評価
① 財務情報公開の体制整備はできているか	適切

基準Ⅸ 法令の遵守

1 取り組み状況

①個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

社会福祉法人キリスト教ミード社会館では、「個人情報の取扱いに関するガイドライン」を設けており、本ガイドラインに基づき、個人情報の保護に努めている。また、学生個人情報については各教職員で必要事項を共有しつつ特に注意して管理している。

②自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

学校職員はもちろん、社会福祉法人キリスト教ミード社会館部門責任者会での意見、提案をいただき自己点検・自己評価を実施した。

2 評価

評価の観点	評価
① 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切
② 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	ほぼ適切

3 課題

自己点検・自己評価実施にあたって教職員の意見の集約が徹底されていない。

4 今後の改善方策

教育の充実化、学生理解の促進の為に、全職員が意識を持って様々な視点で自己評価を行っていく必要がある。

基準 X 社会貢献・地域貢献

1 取り組み状況

①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

大阪府からの委託事業として介護技術に関する講座を適時開催するとともに、府内の中学校への職業体験講座を行っている。また、付帯事業として実施している実務者研修及び介護福祉士実習指導者講習会では、当校指定の実習施設だけではなく、地域にある多くの社会福祉施設から職員研修の場として好評を得ることができている。

また、近年はコロナ禍によって開催できていないが、社会福祉法人キリスト教ミード社会館によるミードフェスタにおいては、学生が主体となって模擬店やダンス発表などを行って地域の子ども達を中心に楽しみの場を提供している。

留学生受け入れ・教育を先駆的に始めた介護福祉士養成校として、その取り組みについての発表依頼を受けた際には積極的に応じている。

②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

実習先からボランティア募集があった場合は、各担任から学生へ周知を行っている。

2 評価

評価の観点	評価
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	ほぼ適切

3 課題

日本人学生が主体であった頃は、学生会が存在しており、自主的なボランティア活動が展開されていたが、留学生が主体となった中、学生会が無くなったことによって、ボラ

ンティア活動を始めた学生主体による活動が展開できていない。

4 今後の改善方策

これからの社会において外国人の地域への主体的な参加は重要となる。その為にも学生会を再構築し、それを学んでいく機会の提供が必要である。